

令和5年5月31日
JA 営農支援課

イネヒメハモグリバエに関する警戒情報

令和5年5月24日に秋田県病虫害防除所より、「イネヒメハモグリバエ」の産卵が中央地区でも確認されたとの報告がありました。

大潟村では産卵及び食害は確認されておりませんが、今後1週間～2週間程度は警戒が必要と思われるので、つぎを参考に対策に努めて下さい。

1. 発生状況の確認について

イネヒメハモグリバエの産卵数はほ場間差が大きいため、ほ場をよく観察して産卵及び食害の状況把握に努めて下さい。特に早植えや遅植えのほ場で産卵数が多くなる傾向にあります。

- ①卵は白色で長さ0.7mmの長楕円形、深植えや深水により水面に浮いた葉身の葉脈に沿って産み付けられる。
- ②幼虫は乳白色のウジでふ化後ただちに葉肉内に潜入し食害するため、発生が多い場合は葉が枯死する。

2. 防除対策について

平均気温が15℃の場合、卵は7日前後でふ化するため、**幼虫による食害が見え始めたらトレボン粒剤を10aあたり2～3kg**水面施用してください。

前回（平成25年）の多発時には育苗箱にパダン粒剤を施用している場合にも被害が確認されていたので注意してください。